

Milky Way

2020. 5月号

「何度言ったら分かるの!!!」(前編)

この言葉、保護者なら一度は口にしたことがあるのではないのでしょうか。一度どころではない!?…失礼いたしました。これ、つい口から出てしまう言葉ですよね。塾で多くの塾生と接する機会のある私たちも、つい、「連絡帳に宿題を書きなさいと、何度も言っただろう」なんて塾生を責めてしまうことがあるんです。先生と生徒の関係ならまだしも、これが親子ということになりますと、そのあとの炎上具合は子どもの年齢が増すとともにひどくなる一方でしょう(苦笑)。「何度言ったら分かるの!」という言葉の直前には、「手紙を出しなさいって言ってるでしょう」とか、「スマホゲームは1時間までと話したでしょう」とか、「テストが終わったらきちんと復習しなさいと言ったよね!」というやりとりがあるものです。ある民放の番組で、「何度言えば分かるのか」という、この問いに対する答えを、500回以上という形で出していました。途方もない数です、1年では足りません。さて、それでは、何度言っても修正できないこの問題、どのようにするのが良いのでしょうか。そもそも、「なぜ子どもは親の言うことを聞かないのか?」ということです。そこをよく考えれば、答えに少しだけ近づくかもしれません。まず、子どもは何が正しいことなのか、ということについてはきちんと分かっているということがほとんどです。手紙を出す、宿題をやる、スマホばかり触っているのは勉強に悪影響である、などということはほとんどの子どもが分かっているのです。「分かっているのに、なぜ直らない?なぜ聞かない?」というみなさんの疑問については、おそらく「あることが欠けている!」からなのかもしれません。それでは、「あること」とは何でしょう!?

～来月に続く～

